

2023年度後期 下関短期大学 「学修成果把握アンケート」の概要

1 趣 旨

このアンケートは、下関短期大学学則第1条の2の規定に基づき、本学の教育研究活動等の状況についての点検評価活動の一環として実施したものです。

2 目 的

「学修成果の可視化」を推進する一環としてこのアンケート調査を行い、その結果をもとに学生は自己の学修を振り返り、教員は授業の改善に役立てるとともに、ファカルティ・ディベロップメント活動を促進し、ひいては本学の教育活動の質の向上に資することを目的とします。

3 調査の実施方法等

(1) 調査方法

ア 調査は授業開講時と修了時に実施しました。

イ 調査は開講時・修了時に各授業担任教員が学生に調査票を配付し、学生が回答したものを回収する方法で実施しました。

(2) 質問項目と評価

質問項目は、授業担当教員がシラバスに基づいて学生に修得させたい「態度」「知識・理解」「技能」等について10項目を設定しました。

なお、非常勤講師については、5項目を設定しました。学生は各項目について、「A 当てはまる(3点)」、「B やや当てはまる(2点)」、「C 当てはまらない(1点)」を選び回答しました。

また、修了時には当該授業を受けたことによって知識・理解や技能が総合的に「向上した」「やや向上した」「余り変わらない」を選び回答しました。

4 調査結果のフィードバック

(1) 3月14日(水)の教授会(FD研修会)にて「全体集計結果」を共有し、授業改善についてFD研修を行いました。

(2) 各教員は「担当授業科目ごとの集計結果」をもとに、設定目標・授業内容・授業方法の見直しなど授業改善を一層進めます。

(3) 学生は授業開講時と修了時を比較すること、及び全体の集計結果(経年比較)(その授業を通して「向上した」「やや向上した」「余り変わらない」)により、当該授業での「学修」を振り返りました。

5 調査結果の公表

集計は「一般教育科目」「栄養健康学科専門科目:1年次」「同2年次」「保育学科専門科目:1年次」「同2年次」ごとに行いました。

ただし、「非常勤講師による授業」は別に集計しました。以下に集計結果の概要を掲載します。

常勤教員担当科目

【一般教育科目】

(1) 対象科目

現代社会と若者(栄2・保1)、外国語(英語)(栄2)、英語表現Ⅱ(栄1・保1)、スポーツ実技(栄1・保1)、ライフスタイルと健康(栄1・保1)、キャリア教育Ⅰ(栄1)、キャリア教育Ⅱ(栄2)、キャリアデザインⅠ(保1)、キャリアデザインⅡ(保2)

(2) 各項目の平均ポイント

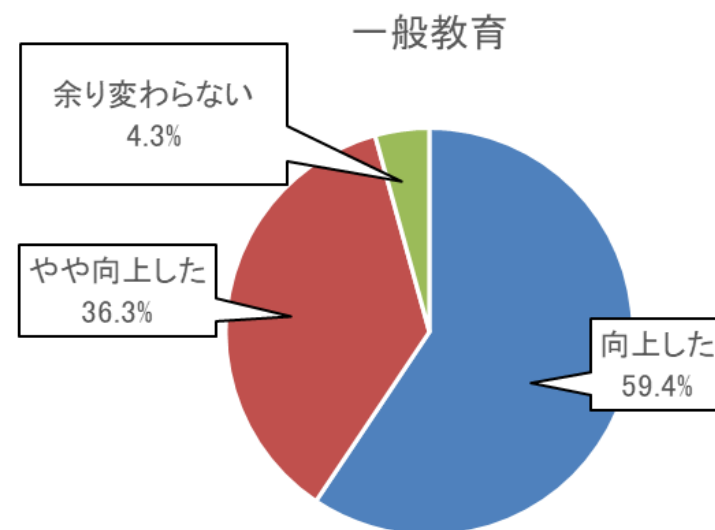
授業開始時の1.5から修了時には2.4へと平均で0.9ポイント伸張しました。最も伸び率の高い科目では1.5ポイントの上昇が見られました。

(3) 向上した項目の割合は全体で77.3%でした。

(4) 授業を受けて自己の能力や技能が「向上した」と回答した学生は59.4%、「やや向上した」と回答した学生は36.3%、「余り変わらない」と回答した学生は4.3%でした。

(→ 右のグラフ)

(5) 修了時に学生が「A(当てはまる)」と回答した項目は全体の54.0%でした。



【栄養健康学科専門科目：1年次】

(1) 対象科目

食品学各論、食品学実験Ⅱ、応用栄養学、栄養学実習、栄養指導論Ⅱ、栄養指導実習Ⅰ、給食実務実習Ⅰ、調理学基礎演習Ⅱ、調理学実習Ⅱ、食事計画演習

(2) 各項目の平均ポイント

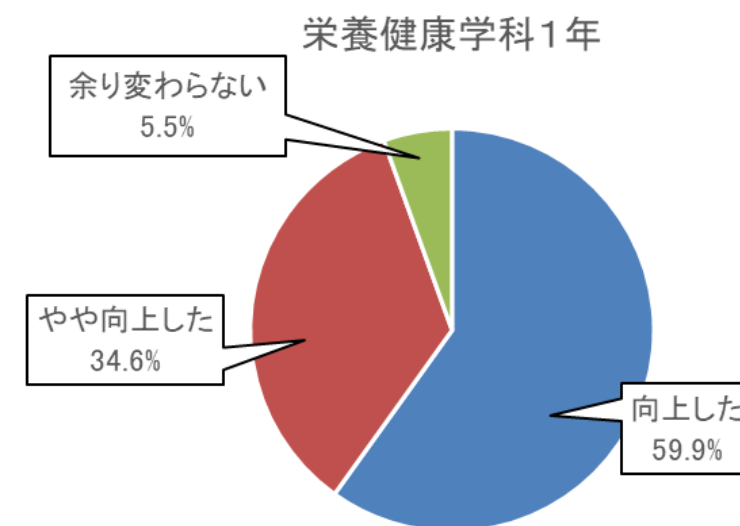
授業開始時の1.6から終了時には2.4へと平均で0.8ポイント伸張しました。最も伸び率の高い科目では0.9ポイントの上昇が見られました。

(3) 向上した項目の割合は全体で72.4%でした。

(4) 授業を受けて自己の能力や技能が「向上した」と回答した学生は59.9%、「やや向上した」と回答した学生は34.6%、「余り変わらない」と回答した学生は5.9%でした。

(→ 右のグラフ)

(5) 修了時に学生が「A(当てはまる)」と回答した項目は全体の38.9%でした。



【栄養健康学科専門科目：2年次】

(1) 対象科目

公衆栄養学、生化学実験、食品衛生学実験、臨床栄養学実習Ⅱ、校外実習事後演習、調理学実習Ⅲ、ゼミナール

(2) 各項目の平均ポイント

授業開始時の1.7から修了時には2.5へと平均で0.8ポイント伸張しました。最も伸び率の高い科目では1.1ポイントの上昇が見られました。

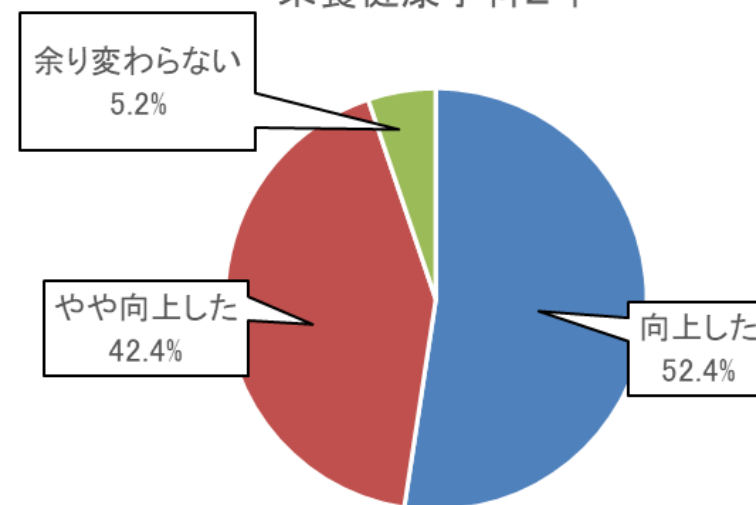
(3) 向上した項目の割合は全体で73.6%でした。

(4) 授業を受けて自己の能力や技能が「向上した」と回答した学生は52.4%、「やや向上した」と回答した学生は42.4%、「余り変わらない」と回答した学生は5.3%でした。

(→ 右のグラフ)

(5) 修了時に学生が「A(当てはまる)」と回答した項目は全体の47.1%でした。

栄養健康学科2年



【保育学科専門科目：1年次】

(1) 対象科目

乳児保育Ⅱ、音楽演習Ⅱ、図画工作Ⅱ、保育実習指導Ⅰ、幼児と環境、幼児と言葉、幼児と音楽表現、教育相談

(2) 各項目の平均ポイント

授業開始時の1.1から終了時には2.6へと平均で1.5ポイント伸張しました。最も伸び率の高い科目では1.7ポイントの上昇が見られました。

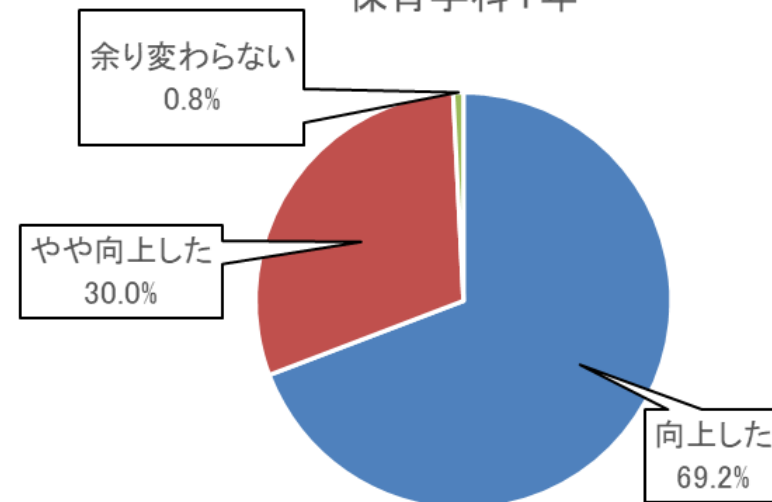
(3) 向上した項目の割合は全体で97.3%でした。

(4) 授業を受けて自己の能力や技能が「向上した」と回答した学生は69.2%、「やや向上した」と回答した学生は30.0%、「余り変わらない」と回答した学生は0.8%でした。

(→ 右のグラフ)

(5) 修了時に学生が「A(当てはまる)」と回答した項目は全体の57.7%でした。

保育学科1年



【保育学科専門科目：2年次】

(1) 対象科目

子ども家庭支援の心理学、発達心理学Ⅱ、臨床心理学、音楽演習Ⅳ、教育行政、保育内容「健康」の指導法、保育内容「人間関係」の指導法、保育内容「環境」の指導法、保育内容「表現」の指導法

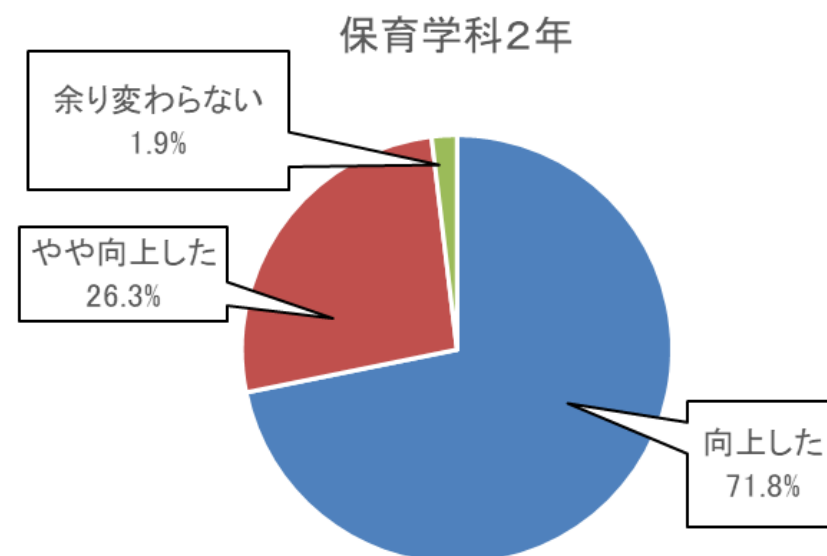
(2) 各項目の平均ポイント

授業開始時の1.1から修了時には2.6へと平均で1.5ポイント伸張しました。最も伸び率の高い科目では1.9ポイントの上昇が見られました。

(3) 向上した項目の割合は全体で96.3%でした。

(4) 授業を受けて自己の能力や技能が「向上した」と回答した学生は71.8%、「やや向上した」と回答した学生は26.3%、「余り変わらない」と回答した学生は1.9%でした。(→ 右のグラフ)

(5) 修了時に学生が「A(当てはまる)」と回答した項目は全体の58.6%でした。



非常勤講師担当科目

(1) 対象科目

パソコン演習Ⅱ、くらしと数理、日本国憲法(栄・保2)、社会福祉概論、食品の官能評価・鑑別論Ⅱ、フードコーディネーター論、食料経済学、子ども家庭福祉、社会的養護Ⅰ・Ⅱ、教育課程総論、保育内容総論、子ども家庭支援論、子どもの保健、教職実践演習Ⅱ、レクリエーション演習

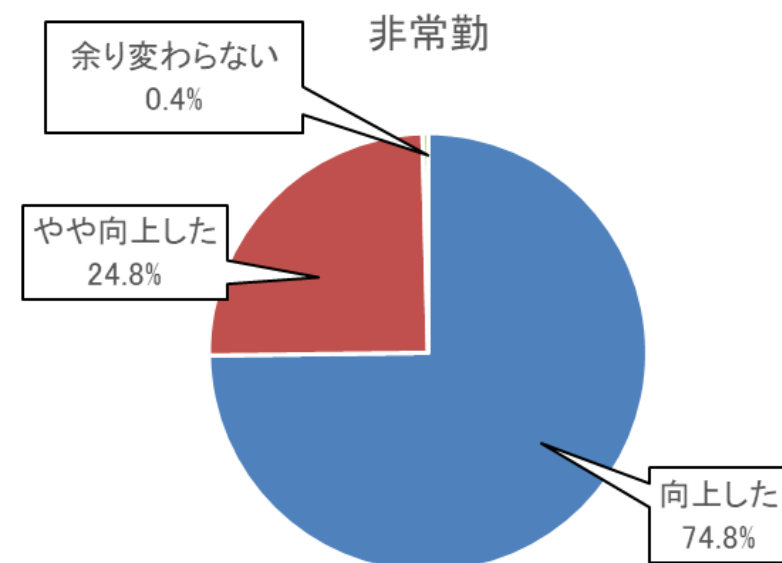
(2) 各項目の平均ポイント

授業開始時の1.1から修了時には2.4へと平均で1.3ポイント伸張しました。最も伸び率の高い科目では1.6ポイントの上昇が見られました。

(3) 向上した項目の割合は全体で95.8%でした。

(4) 授業を受けて自己の能力や技能が「向上した」と回答した学生は74.8%、「やや向上した」と回答した学生は24.8%、「余り変わらない」と回答した学生は0.4%でした。

(5) 修了時に学生が「A(当てはまる)」と回答した項目は全体の40.6%でした。



6 経年比較(2019年度から掲載しています。)

※全体・各学科・各学年のA・B・Cは、「常勤教員担当科目(一般教育科目)」、「常勤教員担当科目(専門科目)」、「非常勤講師担当科目」を合わせたものです。

	全 体			栄養健康学科 1年次			栄養健康学科 2年次			保育学科 1年次			保育学科 2年次		
	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
2020年度 (前期)	52%	43%	4%	34%	59%	7%	39%	53%	8%	59%	37%	4%	62%	36%	6%
2020年度 (後期)	67%	28%	5%	63%	31%	6%	42%	47%	10%	70%	25%	5%	71%	27%	2%
2021年度 (前期)	56%	41%	3%	34%	59%	7%	58%	38%	4%	53%	44%	3%	65%	33%	2%
2021年度 (後期)	69%	30%	1%	41%	54%	5%	76%	23%	1%	71%	28%	1%	75%	24%	1%
2022年度 (前期)	60%	37%	3%	45%	49%	6%	51%	44%	5%	64%	33%	3%	71%	28%	1%
2022年度 (後期)	62%	35%	3%	65%	32%	3%	46%	52%	2%	55%	41%	4%	75%	25%	0%
2023年度 (前期)	65%	33%	2%	58%	39%	3%	56%	41%	3%	74%	23%	3%	65%	35%	0%
2023年度 (後期)	67%	31%	2%	56%	37%	7%	54%	41%	5%	68%	31%	1%	71%	28%	1%